

授業科目	*公衆栄養学実習 (Aクラス)				単位	1		
履修	必修	関連資格	栄養士 管理栄養士 栄養教一種免		ナンバリング	NT22106J		
開講年次	3	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP5-1			
担当教員	坂田 郁子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>公衆栄養学実習は公衆栄養活動を展開できる知識・技術を実習を通して習得する科目である。授業では、集団や地域の健康・栄養改善のために健康・食生活やそれに関わる情報を収集・分析を行い、栄養課題やニーズを明確にし、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識や方法を修得する。また、個人や集団の栄養状態を評価するための食事調査等を行い、結果を適切に評価できる知識や技術を修得する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事調査の種類と特徴を理解し、調査対象者に合わせた食事調査方法を選択できる。 2. 食事調査を実施・解析・評価し、栄養指導ツールが作成できる。 3. 対象集団や地域の健康・栄養問題特性を把握し、適切な社会資源を活用した公衆栄養プログラムを作成することができる。 4. 公衆栄養活動を説明できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	60	30	10	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			30		5		35	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10	15			25	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			10		5		15	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)			10	15		0	25	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 調査対象者に合わせた食事調査方法を選択でき、食事調査を実施・解析できる。 2) 食事調査結果を評価し、栄養指導ツールを作成し発表できる。 3) 公衆栄養活動における栄養アセスメント・計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックについて理解し、説明できる。 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 調査対象者に合わせた食事調査方法を選択でき、食事調査を実施・解析できる。 2) 対象集団や地域の健康・栄養問題特性を把握し説明できる。 3) 公衆栄養活動について説明できる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	テーマ:公衆栄養学実習の意義 公衆栄養活動における公衆栄養アセスメントから公衆栄養プログラム作成までの手法を説明する。公衆栄養アセスメントの一つである食事調査の手法を修得する。	講義 演習	課題:食事調査の実施	60
2	テーマ:食事調査の実施・評価 国民健康・栄養調査の手法を学び、食事調査を実施する。 食物摂取頻度調査についても実施する。	実習	課題:食事調査の結果から栄養・食生活改善計画を作成する。	120
3	テーマ:食事調査の結果に基づいた栄養指導の実施 食事調査結果から立てた栄養指導計画に基づき栄養指導を行う。	実習 グループワーク レポート	課題:実施した栄養指導を評価する。	60
4	テーマ:地域診断と公衆栄養マネジメント 地域の人口動態、保健統計情報を収集し、地域の特徴・問題点を整理する。	講義 演習 グループワーク	復習:地域の特徴・問題点を整理する。	60
5	テーマ:公衆栄養アセスメント① 既存資料、健康・栄養情報を収集し、地域診断でえられた情報と併せて地域の健康・栄養状態を把握する。	講義 実習 グループワーク	復習:地域の特徴・問題点を整理する。	60
6	テーマ:公衆栄養アセスメント② 質問票を作成し、食習慣・食態度・食知識を把握する。	講義 実習 グループワーク	復習:公衆栄養アセスメントの目的と方法を整理する。	60
7	テーマ:公衆栄養アセスメント③ 質問調査を実施し、集計した結果をまとめる。 地域診断、既存資料等と併せ地域の課題を明確にする。	講義 実習 グループワーク レポート	課題:発表の準備をする。	60
8	テーマ:公衆栄養アセスメントの発表 公衆栄養アセスメントで得られた情報を基に健康・栄養の課題を明確し発表する。。	発表 グループワーク	復習:発表の自己評価をする。	60
9	テーマ:公衆栄養プログラムの企画① 公衆栄養活動に関する文献を検索し、公衆栄養プログラムを計画する。	講義 実習 グループワーク	復習:参考にする文献をまとめる。	60
10	テーマ:公衆栄養プログラムの企画② PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムを作成する。	講義 実習 グループワーク	課題:班で公衆栄養プログラムを作成する。	60
11	テーマ:公衆栄養プログラムの企画③ 公衆栄養プログラムに必要となる社会資源の活用の検討及び指導ツールを作成する。	講義 実習 グループワーク	予習:公衆栄養プログラムを作成する。	60
12	テーマ:公衆栄養プログラムの企画④ 公衆栄養プログラムに企画評価、プロセス評価、影響評価、結果評価を含め完成させる。	発表 グループワーク	課題:公衆栄養プログラムの発表の準備をする。	60
13	テーマ:公衆栄養プログラムの展開② 班で作成した公衆栄養プログラムを発表し、相互評価をする。	発表 グループワーク	課題:公衆栄養プログラム発表後の他者評価を受けてプログラムを見直す。	120
14	テーマ:公衆栄養マネジメント① 班で作成した公衆栄養プログラムの総評及び公衆栄養活動について解説をする。	講義 実習	課題:公衆栄養プログラムを見直し、完成させる。	120
15	テーマ:公衆栄養マネジメント② 公衆栄養マネジメントを理解し公衆栄養プログラムを完成させる。	講義 実習 レポート	復習:公衆栄養マネジメントをまとめる。	30
16				

17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<p>本実習は、PDCA サイクルに基づき、実際に公衆栄養プログラムを作成します。</p> <p>課題抽出で統計分析を行うため、2年次の「健康情報処理論」「栄養疫学」「健康情報処理実習」で得た知識と技術が必要です。</p> <p>また、厚生労働省や総務省などが発表している統計資料、特定保健指導等で使用されている有用な媒体等、すでに使用されている社会資源を上手に活用する必要があるため、正確な情報収集能力が必要です。</p>			
テキスト	<p>「公衆栄養学」古野純典, 吉池信男, 林宏一編(南江堂)</p> <p>「管理栄養士・栄養士必携」公益社団法人日本栄養士会編(第一出版)</p> <p>「日本人の食事摂取基準2020年版」(第一出版)</p> <p>※テキストは、授業外学習(予習・復習)にも活用する。</p> <p>★食事調査に必要なので、各自準備しておくこと: デジタル秤, 計量スプーン, 計量カップ</p>			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)</p> <p>「国民健康・栄養の現状」(第一出版)</p> <p>「食育白書」(農林水産省 編)</p> <p>「厚生労働白書」(厚生労働省 編)</p>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>公衆栄養学実習は栄養士・管理栄養士になるための基礎的な科目です。「公衆栄養学 1」「公衆栄養学 2」で学んだ内容を基にしています。これまで学んだ情報処理・栄養疫学も関連します。パソコンを使ったデータ処理に慣れておきましょう。自身の食事を秤量、栄養価算定するなど、食事摂取量の概算にも慣れておきましょう。</p>			
達成度評価に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにより他者との連携・協同の精神を身に付けることも重要であるため、欠席・遅刻は減点します。 ・実習時間中の班での発表については、観察者(クラスメイト)の評価も参考にします。 ・個人評価については、個人課題・レポートの質的レベルで評価します(締切厳守)。 			